

本資料のうち、枠囲みの内容  
は商業機密の観点から公開で  
きません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-08-0020_改1
提出年月日	2021年10月28日

## 工事計画に係る説明資料

原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備

(原子炉格納容器調気設備 (原子炉格納容器調気系))

(本文)

2021年10月

東北電力株式会社

## 申請範囲

### 7. 原子炉格納施設

#### 7.3 圧力低減設備その他の安全設備

##### (8) 原子炉格納容器調気設備

###### a. 原子炉格納容器調気系

ニ 主要弁

ホ 主配管

(8) 原子炉格納容器調気設備

a. 原子炉格納容器調気系

ニ 主要弁

			変更前	変更後	
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F001 <sup>*2</sup>		
種 類			止め弁		
最 高 使 用 壓 力			kPa	427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度			°C	171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>		
	弁 箱 厚 さ	mm		 <sup>*3</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm		 <sup>*3</sup>	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし	
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*3</sup>		
驅 動 方 法			空気作動		
個 数			1		
取付箇所	系 統 名 (ライイン名)	—	T48-F001 原子炉格納容器調気系	<sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. 6.00m	<sup>*6</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			

注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F001」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

I  
II  
①  
○

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F002 <sup>*2</sup>	
種類	—		止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa		427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*3</sup>	
驅動方法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F002 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. - 8.10m <sup>*6</sup>	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F002」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

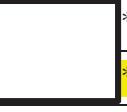
\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

I  
II  
①  
○

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F003 <sup>*2</sup>	
種類	—		止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa		427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm		 <sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		 <sup>*3</sup>
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*3</sup>	
驅 動 方 法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F003 原子炉格納容器調気系	 <sup>*3</sup>
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. - 8.10m	 <sup>*6</sup>
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

I  
II  
①  
○

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F010 <sup>*2</sup>	
種類	—		止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa		427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	50A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	
材 料	弁 箱	—	S25C	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C	
驅動方法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F010 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. - 8.10m <sup>*6</sup>	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が 必 要 な 高 さ	—		[ ]

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F010」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F011 <sup>*2</sup>	
種類	—	—	止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa	—	427 <sup>*3</sup>	変更なし
最 高 使 用 温 度	°C	—	171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	50A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	[ ]
	弁 ふ た 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	[ ]
材 料	弁 箱	—	S25C	
	弁 ふ た	—	S25C	変更なし
驅動方法			空気作動	電気作動
個 数			1	変更なし
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F011 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 0.P. - 8.10m <sup>*6</sup>	変更なし
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	[ ]

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F011」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

R 1  
II ①  
O 2

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F012 <sup>*2</sup>	
種類	—		止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa		427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	50A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	[ ] <sup>*3</sup>	
材 料	弁 箱	—	S25C	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C	
驅動方法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F012 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 0.P. - 8.10m <sup>*6</sup>	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が 必 要 な 高 さ	—		[ ]

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F012」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「50」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

I  
II  
①  
○

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F016 <sup>*2</sup>	
種 類			止め弁	
最 高 使 用 壓 力			kPa	427 <sup>*3</sup>
最 高 使 用 温 度			°C	171 <sup>*3</sup>
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	450A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*3</sup>	
驅 動 方 法			空気作動	
個 数			1	
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F016 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. 6. 00m <sup>*6</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F016」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「450」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F019 <sup>*2</sup>	T48-F019 <sup>*3</sup>
種類	一		止め弁	変更なし
最 高 使 用 压 力	kPa		427 <sup>*4</sup>	変更なし 854 <sup>*5</sup>
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*5</sup>
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*6</sup>	600A <sup>*7</sup>	変更なし
	弁 箱 厚 さ	mm	□ <sup>*4</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□ <sup>*4</sup>	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*4</sup>	
驅 動 方 法	—		空気作動	電気作動／遠隔手動
個 数	—		1	変更なし
取付箇所	系 統 名 (ライイン名)	—	T48-F019 原子炉格納容器調気系 <sup>*4</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. 15.00m <sup>*8</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F019」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系、耐圧強化ベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：重大事故等時における使用時の値。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F020 <sup>*2</sup>	T48-F020 <sup>*3</sup>
種類	—	—	止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa	—	427 <sup>*4</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C	—	171 <sup>*4</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*5</sup>	300A <sup>*6</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm	— <sup>*4</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	— <sup>*4</sup>	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*4</sup>	
驅動方法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F020 原子炉格納容器調気系 <sup>*4</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 0. P. 22. 50m <sup>*7</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	■

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F020」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F021 <sup>*2</sup>	T48-F021 <sup>*3</sup>
種類	—	—	止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa	—	427 <sup>*4</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C	—	171 <sup>*4</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*5</sup>	600A <sup>*6</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm	— <sup>*4</sup>	
	弁 ふ た 厚 さ	mm	— <sup>*4</sup>	
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*4</sup>	
驅動方法			空気作動	
個 数			1	
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	T48-F021 原子炉格納容器調気系 <sup>*4</sup>	
	設 置 床	—	原子炉建屋 0. P. 15. 00m <sup>*7</sup>	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	■

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F021」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後	
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F022 <sup>*2</sup>	T48-F022 <sup>*3</sup>	
種類	一		止め弁	変更なし	
最 高 使 用 压 力	kPa		427 <sup>*4</sup>	変更なし 854 <sup>*5</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		171 <sup>*4</sup>	変更なし 200 <sup>*5</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*6</sup>	600A <sup>*7</sup>	変更なし	
	弁 箱 厚 さ	mm			
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—	SCPH2	変更なし	
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*4</sup>		
驅 動 方 法			空気作動	電気作動／遠隔手動	
個 数			1	変更なし	
取付箇所	系 統 名 (ライイン名)	—	T48-F022 原子炉格納容器調気系		
	設 置 床	—	原子炉建屋 0.P. - 8.10m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F022」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系、耐圧強化ベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。

\*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*5：重大事故等時における使用時の値。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F004A, B <sup>*2</sup>	
種類			逆止め弁	
最高使用圧力	kPa	—	427 <sup>*3</sup>	
最高使用温度	°C	—	104 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼び径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>	
	弁箱厚さ	mm	— <sup>*3</sup>	
	弁ふた厚さ	mm	— <sup>*3</sup>	
材料	弁箱	—	SCPH2	
	弁ふた	—	SCPH2	— <sup>*7</sup>
駆動方法			空気作動	
個数			2	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	T48-F004A, B 原子炉格納容器調気系 <sup>*3</sup>	
	設置床	—	原子炉建屋 0.P. - 8.10m <sup>*6</sup>	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—	—	

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称 <sup>*1</sup>			T48-F005A, B <sup>*2</sup>	
種類	一		止め弁	
最 高 使 用 壓 力	kPa		427 <sup>*3</sup>	
最 高 使 用 温 度	°C		104 <sup>*3</sup>	
主要寸法	呼 び 径	— <sup>*4</sup>	600A <sup>*5</sup>	
	弁 箱 厚 さ	mm		<sup>*3</sup>
	弁 ふ た 厚 さ	mm		<sup>*3</sup>
材 料	弁 箱	—	SCPH2	
	弁 ふ た	—	S25C <sup>*3</sup>	<sup>*7</sup>
驅動方法			空気作動	
個 数			2	
取付箇所	系 統 名 (ライൻ名)	—	T48-F005A, B 原子炉格納容器調気系	<sup>*3</sup>
	設 置 床	—	原子炉建屋 0.P. - 8.10m	<sup>*6</sup>
	溢水防護上の 区画番号	—		
	溢水防護上の配慮 が必要な高さ	—		

注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F005A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「600」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

\*7：記載の適正化を行う。本設備は設計基準対象施設として工事計画の記載範囲外である。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

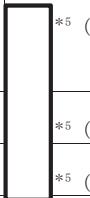
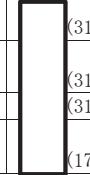
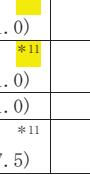
## ホ 主配管

変更前							変更後						
名 称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>*1</sup> (mm)	厚 さ <sup>*2</sup> (mm)	材 料	名 称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>*1</sup> (mm)	厚 さ <sup>*2</sup> (mm)	材 料
原子炉格納容器調気系	T48-F001 ～ T48-F002出口側合流点	427 * <sup>4</sup>	171	609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C	T48-F002出口側合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	変更なし	変更なし	200* <sup>9</sup>	変更なし	変更なし	変更なし
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
	T48-F002出口側合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	427 * <sup>4</sup>	171	61.1* <sup>7</sup>	(6.1) * <sup>7</sup>	S25C	T48-F002出口側合流点 ～ 原子炉格納容器配管貫通部 (X-80)	変更なし 854* <sup>9</sup>	変更なし 200* <sup>9</sup>	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
原子炉建屋内	ドライウェル入口配管分岐点 ～ サプレッションチェンバ	427 * <sup>4</sup>	171	609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C	ドライウェル入口配管分岐点 ～ サプレッションチェンバ	変更なし 31.0	変更なし 31.0	変更なし 31.0	変更なし 31.0	変更なし 31.0	変更なし 31.0
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
	原子炉建屋内 ～ サプレッションチェンバ入口 配管合流点1	427 * <sup>4</sup>	104	609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C							
原子炉建屋内	原子炉建屋内 ～ サプレッションチェンバ入口 配管合流点2	427 * <sup>4</sup>	104	609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C	原子炉建屋内 ～ サプレッションチェンバ入口 配管合流点2	変更なし 427	変更なし 104	変更なし 609.6	変更なし 31.0	変更なし SM400C	変更なし SM400C
				—	—	—							
		427 * <sup>4</sup>	104	61.1* <sup>7</sup>	(6.1) * <sup>7</sup>	S25C							

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前							変更後						
名称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径 <sup>1</sup> (mm)	厚さ <sup>2</sup> (mm)	材料	名称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外径 <sup>1</sup> (mm)	厚さ <sup>2</sup> (mm)	材料
原子炉格納容器調気系	T48-F016 ~ ドライウェル入口配管合流点	427 *4  *13	171	457.2	*5 (9.5)  *6	SM400C  *6, *14	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				457.2	*5 (9.5)	SM400C							
	T48-F010 ~ T48-F011入口側合流点	427 *4  *15	171	60.5	(5.5)	STS42							
				61.1 *7 /	(6.1) *7 /	S25C							
				61.1 *7 /	(6.1) *7 /	S25C							
				61.1 *7 /	(6.1) *7 /	S25C							
				—	—	—							
				61.1	(6.1)	S25C							
				—	—	—							
				—	—	—							
原子炉格納容器調気系	T48-F011入口側合流点 ~ T48-F002出口側合流点	427 *4  *15	171	60.5	(5.5)	STS42	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				*7, *11	*7, *11	—							
	T48-F002出口側合流点 ~ ドライウェル補給用窒素配管分岐点 ~ 原子炉建屋内吸入配管合流点	427 *4  *16	171	61.1	(6.1)	S25C							
				60.5	(5.5)	STS42							
				60.5	(5.5)	STS42							
				*7, *11	*7, *11	—							
				61.1	(6.1)	S25C							
				—	—	—							
				—	—	—							
				—	—	—							
原子炉格納容器配管貫通部(X-81)	原子炉格納容器配管貫通部(X-81) ~ ドライウェル出口配管分岐点	427 *4  *17	171	609.6	*5 (9.5)	SM400C	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				*6	*6	*6, *14							
				609.6	*5 (9.5)	SM400C							
				609.6 /	*5 (9.5)	SM400C							

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後										
名 称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>*1</sup> (mm)	厚 さ <sup>*2</sup> (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>*1</sup> (mm)	厚 さ <sup>*2</sup> (mm)	材 料					
原子炉格納容器調気系	*17 ドライウェル出口配管分岐点 ～ T48-F046	427 * <sup>4</sup>	171	609.6	* <sup>5</sup> (9.5) 	* <sup>14</sup> SM400C	変更なし									
		427 * <sup>4</sup>	104	609.6	* <sup>6</sup> * <sup>5</sup> (9.5) 609.6	* <sup>6</sup> SM41C	* <sup>18</sup> 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ～ ドライウェル出口配管分岐点	変更なし 854* <sup>9</sup>	変更なし 200* <sup>9</sup>	変更なし * <sup>11</sup> (31.0)	SM400C					
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C		变更なし * <sup>11</sup> (31.0)	SM400C							
		—						変更なし 609.6 (31.0)								
	*19 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ～ ドライウェル出口配管分岐点	427 * <sup>4</sup>	171	609.6	* <sup>5</sup> (17.5)	* <sup>14</sup> SM400C										
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM41C SM400C										
				609.6	* <sup>6</sup> * <sup>5</sup> (9.5)	* <sup>6</sup> , * <sup>14</sup> SM41C SM400C										
				609.6	* <sup>5</sup> (9.5)	SM400C										
				609.6	/	* <sup>14</sup> SM400C										
				609.6	/											
				609.6	/											
		—						変更なし 854* <sup>9</sup>								
*21 サプレッションチャンバ出 口配管分岐点1 ～ T48-F045	427 * <sup>4</sup>	171	318.5	* <sup>5</sup> (10.3)	* <sup>14</sup> SM400C	* <sup>18</sup> 原子炉格納容器配管貫通部 (X-230) ～ ドライウェル出口配管分岐点	427 854* <sup>9</sup>	171 200* <sup>9</sup>	609.6 /	(17.5) (17.5)	STS410					
			318.5	(10.3)	STS410											
			* <sup>6</sup>	* <sup>6</sup>	* <sup>6</sup> , * <sup>22</sup>											

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

変更前						変更後							
名 称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>1</sup> (mm)	厚 さ <sup>2</sup> (mm)	材 料	名 称		最高使用圧力 (kPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 <sup>1</sup> (mm)	厚 さ <sup>2</sup> (mm)	材 料
原子炉格納容器調気系	液体窒素貯槽 ～ ページ用液体窒素蒸発器	1.87 <sup>*4</sup> (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
		1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
	ページ用液体窒素蒸発器	1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	76.3	(5.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				165.2	(7.1)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				34.0	(3.4)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				216.3	(8.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
	ページ用液体窒素蒸発器 ～ T48-F016	1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	216.3	(8.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				89.1	(5.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				89.1	(5.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				216.3	(8.2)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
		0.86 <sup>*4</sup> (MPa)	66	216.3	(8.2)	STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						
				457.2	 (9.5)	SM400C	変更なし <sup>*23</sup>						
				457.2	 (14.3)	SM400C	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
	液体窒素貯槽出口配管分岐点 ～ 常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用)	1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	34.0	(4.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				80.0	 (6.0)	A6063TE	変更なし <sup>*23</sup>						
		1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	60.0	 (4.0)	A6063TE	変更なし <sup>*23</sup>						
				31.0	 (3.0)	A6063S	変更なし <sup>*23</sup>						
				31.0	 (3.2)	A6063TE	変更なし <sup>*23</sup>						
	常時補給用液体窒素蒸発器 (送ガス用) ～ T48-F010	1.77 <sup>*4</sup> (MPa)	66	34.0	(4.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	SUS304TP	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	STPL380	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						
		427 <sup>*4</sup>	66	60.5	(5.5)	STPT38 STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						
				21.7	(3.7)	STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						
				60.5	(5.5)	STPT370	変更なし <sup>*23</sup>						

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

- 注記\*1 : 外径は公称値を示す。  
\*2 : ( ) 内は公称値を示す。  
\*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋原子炉棟換気空調系からドライウェルまで（ドライウェル入口配管）」と記載。  
\*4 : S I 単位に換算したものである。  
\*5 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成3年6月19日付け3資庁第1003号にて認可された工事計画の添付書類「IV-2-2-2-2-1 管の基本板厚計算書」による。  
\*6 : エルボを示す。既工事計画書にはエルボを含めた管仕様を記載しているため、記載の適正化を行う。  
\*7 : 差込継手の差込部内径及び最小厚さ。  
\*8 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（可搬型窒素ガス供給系、原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。  
\*9 : 重大事故等時の使用時の値。  
\*10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル入口配管からサプレッションチェンバまで（サプレッションチェンバ入口配管）」と記載。  
\*11 : エルボを示す。  
\*12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋内からサプレッションチェンバ入口配管まで（原子炉建屋内吸入配管）」と記載。  
\*13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ページ用液体窒素蒸発器からドライウェル入口配管まで」と記載。  
\*14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41C」と記載。  
\*15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「常時補給用液体窒素蒸発器からドライウェル入口配管まで（ドライウェル補給用窒素配管）」と記載。  
\*16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェル補給用窒素配管から原子炉建屋内吸入配管まで」と記載。  
\*17 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ドライウェルから原子炉建屋原子炉棟換気空調系まで（ドライウェル出口配管）」と記載。  
\*18 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系、耐圧強化ベント系）並びに圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）及び圧力低減設備その他の安全設備の圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）と兼用。  
\*19 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバからドライウェル出口配管まで（サプレッションチェンバ出口配管）」と記載。  
\*20 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
\*21 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サプレッションチェンバ出口配管から非常用ガス処理系まで」と記載。  
\*22 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STS42」と記載。  
\*23 : 本設備は記載の適正化を行うものであり、手続き対象外である。  
\*24 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT38」と記載。  
\*25 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「液体窒素貯槽出口配管から常時補給用液体窒素蒸発器（送ガス用）まで」と記載。  
\*26 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPL39」と記載。